人間発達教育科学研究所　構成メンバー

所長：教授　　浜野　隆（教育開発学）

副所長：教授　　上原　泉（発達心理学）

教員：准教授　　今泉　修（認知心理学）

研究員：
- 教授　石丸径一郎（臨床心理学）
- 教授　大多和直樹（教育社会学）
- 教授　大森正博（医療経済学）
- 教授　大森美香（健康/臨床心理学）
- 教授　刑部育子（幼児教育学）
- 教授　杉野　勇（法社会学）
- 教授　高橋　哲（臨床心理学）
- 教授　西　隆太朗（保育学・臨床心理学）
- 教授　冨士原紀絵（教育方法学）
- 教授　山田美穂（臨床心理学）
- 准教授　伊藤大幸（発達精神病理学）
- 准教授　齊藤　彩（特別支援教育）
- 准教授　砂川芽吹（臨床心理学）
- 准教授　辻谷真知子（保育学）
- 准教授　平野真理（臨床心理学）
- 准教授　宝月理恵（歴史社会学）
- 准教授　三宅雄大（社会政策学）
- 准教授　武藤世良（教育心理学）
- 講師　松島のり子（幼児教育学）
- 助教　光橋　翠（幼児教育学）

客員教授：
- 神尾陽子

特別招聘研究員：
- 秋篠宮皇嗣妃殿下

客員研究員：
- 宮里暁美

研究協力員：
- 内海緒香
- 島田祥子
- 山宮裕子

事務局：
- 特任准教授　松本聡子（環境心理学）
- アカデミックアシスタント　砂原ジーナ
- アカデミックアシスタント　西田麻衣

お茶の水女子大学では、人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図したイノベーションを実現する教育研究拠点として、本学のこれまでの教育研究の実績や人材育成の経験を活かし、更に発展させるよう、総合的、国際的な研究・教育活動を行うことを目的とした「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を、2016（平成 28）年に開設しました。本機構は、「ヒューマンライフサイエンス研究所（旧ヒューマンライフイノベーション研究所）」と「人間発達教育科学研究所」の 2 つの研究所で構成されています。

〒112-8610　東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学　アカプロ棟 203 室
人間発達教育科学研究所　事務局
Tel & Fax：03-5978-5539
E-mail：info-iehd@cc.ocha.ac.jp
URL：http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/

お茶の水女子大学
人間発達教育科学研究所

Institute for Education and Human Development

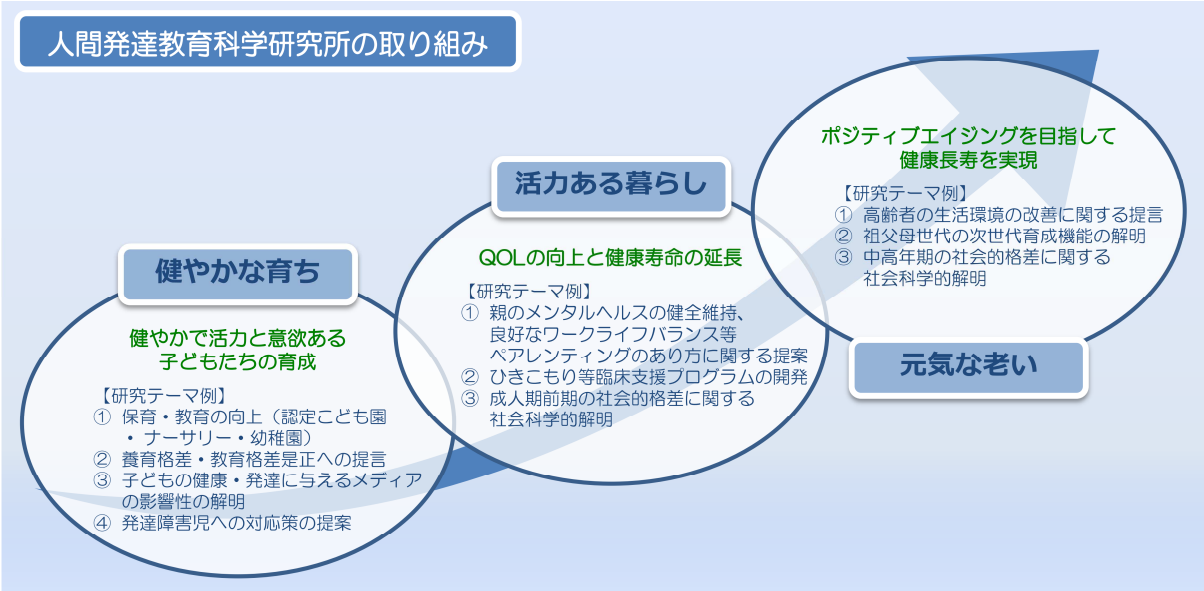
健やかで活力ある人生を送るために
子ども期からの「しあわせ」を考える
―人間発達教育科学研究所による
研究と実践―

http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/

目　的

本研究所は、本学の人間発達科学をテーマとする学内教員を組織し、人間の発達と教育に関する総合的、国際的な研究拠点を構築することをめざして、2016 年 4 月に設置されました。

人間発達に関する基礎研究と実践研究・臨床研究を結びつける中から、革新的・効果的な成果発信と提言を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究などを含め、少子化を質的・量的に改善する施策や、子どもから青年期以降までの発達の質の向上に向けた施策の策定に貢献することを目標としています。本研究所の前身は、2002 年 4 月に学内措置センターとして設置された「子ども発達教育研究センター」で、現在は、本学「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」傘下の研究所として、本学内外の研究・教育者の協力を得ながら、右記のような領域の研究活動を行なっています。



組織と研究内容

「保育実践研究部門」の研究事業

乳幼児期の保育・教育の向上、保育者の育成、地域子育て支援の開発に関して統合的に、学内の3つの乳幼児施設（附属幼稚園、ナーサリー、こども園）に加え、地域との連携も図りながら研究を行います。

また、乳幼児保育・教育のカリキュラムおよび学生・保育者・社会人向けの学習・研修プログラムの開発と評価に関する研究を行います。

「人間発達基礎研究部門」の研究事業

子ども期から老年期までの人間の生涯発達について、心理学、認知科学、教育学、社会学の方法論用いて、人々の心身の健康や格差など社会的問題の解決に資する理論的・実証的知見の蓄積を行います。

①「心身の健康や発達に関する基礎的研究」では、子ども期の環境因子と個人因子の相互作用に関する縦断研究や心身の健康や発達に関する基礎的研究を展開します。

②「認知・言語発達研究」では、言語理解・記憶・語り・感情などの認知機能の解明を行います。

③「発達に関する社会科学的研究」では、子どもの学力や教育達成の格差に関する研究、教育・健康に関する社会科学的研究等を実施します。

「発達臨床支援研究部門」の研究事業

発達障害（自閉スペクトラム症、注意欠如多動症など）を有する子どもや青年への支援に関する調査研究をはじめ、支援が求められる家庭や地域、福祉や教育の現場などに実際に関わりながら、そこに生きる人々を支援するプログラムやコンサルテーション技法などの介入方略や理論を検討していきます。

◆研究所主催のセミナーやシンポジウム、学術論文・著書等研究成果については以下サイトにて随時公開しております。

http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/